

## 令和5年11月定例会一般質問発言通告表

発言 順序	8	議席 番号	5	氏名	赤池弘源 議員	1 / 1
発言項目				要 旨		答弁者
1				各地域の小公園の緑の維持管理について	<p>今年例年のない猛暑で、雑草の伸びは早くどこも草刈りが間に合わない状態だった。世の中では人口減少・少子高齢化が叫ばれ、また多様化する生活の中で地域交流が以前より減少傾向にある。しかし、南海トラフ巨大地震をはじめとする災害時には近隣同士の助け合いが重要だと考える。それには日頃からのコミュニティーの強化が必要となってくる。日頃から、公園の手入れを通して人がつながり、災害時にはそこに来て、お互いを助け合える地域づくりを目指して以下伺う。</p> <p>(1) 小公園では年2回草刈りが実施されているが、市として現状の管理についてどのように認識しているか伺う。</p> <p>(2) 小公園には、公園愛護活動管理協定を結んでいるところがあるが、協定数及び活動状況について伺う。</p> <p>(3) 他市でも例があることだが、地域の自治会に補助金等を交付し、自治会に小公園の緑の管理を依頼してはどうか。</p>	市長 副市長 教育長 関係部長
2				文化財保存活用地域計画の策定について	<p>富士宮市の文化行政が目指す方向性に見える化が現在策定予定である文化財保存活用地域計画であると考え。この計画が、人口減少社会に打ち勝ち、地域の文化財を守り生かしていく計画となるよう以下伺う。</p> <p>(1) 文化財保存活用地域計画を策定し、2025年末の文化庁長官の認定を目指すところがあるが、若者の人口流失が進む中で、若者が地元に対して魅力を感じるような計画づくりが大事だと思うがいかがか。</p> <p>(2) 本計画と他の文化行政施策の位置付けについて伺う。</p> <p>(3) 文化財保存活用支援団体の指定が制度化されたが、富士宮市での現状と制度の活用について市の考えを伺う。</p> <p>(4) 文化財保存活用地域計画の活用方法について、市内に散在する多様な文化財を一つのテーマで結びつける「文化財群」、文化財集中エリアで特定の文化財を核とした文化的空間を創出し、区域内のほかの文化財もまとめて保存・活用を目指す「活用区域」とあるが、これらを活用していくには人々が憩い、まちが賑わうような視点が必要である。観光的要素について市の考えを伺う。</p>	市長 副市長 教育長 関係部長
3				中学校の部活動の地域移行について	<p>教員の働き方改革を踏まえ、中学校の部活動の地域移行が進められている。来年の中学校体育連盟主催の大会終了後、ある程度形ができると聞いたが、関係者から情報が入らないことで心配の声がある。現在までの進捗状況はどうなっているか。またどのような考え方で進められているか伺う。</p> <p>(1) 学習指導要領の中の「学校教育の一環としての部活動」はとても重要だと考えるが、地域移行によって、部活動で行われていた教育的な部分についてはどのように認識しているか伺う。</p> <p>(2) 部活動の土曜日及び日曜日の地域移行を進めるにあたり、各学校の部活動や部活種目の事情等は様々だと考えるが、指導者の確保についてどのように考えているか。</p> <p>(3) 土曜日及び日曜日の部活動は大事な活動と思うが、金銭負担及び移動手段について伺う。</p>	市長 副市長 教育長 関係部長